公開用

令和４年度第４回　高砂市文化振興審議会

日　時　令和５年２月２１日（火）１８：００～
場　所　高砂市役所南庁舎５階　大会議室

出席委員	会　長	田端　和彦	委　員	松下　尚平
	副会長	藤村　清春	委　員	野一　洋
	委　員	岩見　一美	委　員	中野　哲郎
	委　員	渡邊　紀子	委　員	松本　光弘
	委　員	髙橋　賢吉		

欠席委員　委　員　天野　富美男

出席事務局職員

健康こども部長	福原　裕子
健康こども部健康文化室長	牛塚　美智子
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課長	井村　欽也
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課主幹	西村　直巳
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課係長	永光　麻衣子
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課	髙橋　由佳
健康こども部健康文化室 文化スポーツ課	松本　優季

協議事項

１　開　　会
２　あ　い　さ　つ
３　議　　題
　（１）パブリックコメントの結果について
　（２）第２次高砂市文化振興基本方針（答申案）について
４　そ　の　他
　（１）今後のスケジュール
５　閉　　会

○司会

ただいまより始めさせていただきます。

オープニング時に、恒例となっておりました謡曲「高砂」全員合唱は、今回は新型コロナウイルス感染症防止のため、実施せず、ＣＤを流させていただきますので、お手元の詞章をご覧いただき、声を出さずに、心の中でご唱和いただきたいと思います。よろしくお願いします。

（謡曲「高砂」清聴）

○司会

ありがとうございました。

ただいまより令和４年度第４回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただいておりますが、本日傍聴希望者はございません。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただき、ありがとうございます。

それでは、ここで、本日の資料の確認を行いたいと思います。

本日配付させていただきました資料が、会議の次第、謡曲「高砂」の詞章、第２次高砂市文化振興基本方針（素案）に対するパブリックコメント（市民意見公募）の結果について、第２次高砂市文化振興基本方針（答申案）、第２次高砂市文化振興基本方針（概要版）でございます。

皆様、おそろいでしょうか。

本日の会議ですが、委員より欠席の申出がありました。出席者９名、欠席者１名により、審議会規則第５条第２項の規定により、過半数が出席されているため、会議が成立していることをご報告いたします。

本日は、新型コロナウイルス感染症対策として、発言の際は挙手の上、マイクを使っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

今後の議事進行は、審議会規則第５条第１項により、会長にお願いしたいと存じます。

会長、よろしくお願いいたします。

○会長

それでは、次第に従いまして、進めさせていただきたいと思います。

まず、１番目ですが、先ほどもちょっとお話がありましたパブリックコメントの結果についてということで、資料に基づきながら、事務局のほうからご説明をお願いしたいと思います。

○事務局

事務局でございます。座って失礼いたします。

本日資料としてお渡ししております１枚ものの「第２次高砂市文化振興基本方針に対するパブリックコメントの結果について」というものをご覧いただけますでしょうか。

本審議会におきましてご審議いただきました方針の素案につきまして、委員の皆様にもお知らせをさせていただきましたとおり、１月２０日から２月２０日までの１箇月間、パブリックコメントを公募いたしました。

資料の裏面にお示しをしておりますとおり、ご意見をお寄せくださった方は６名、うち意見件数は１０件という結果でございました。

公募の受付でございますが、窓口への持参、郵送、ファックス、メール、ｅーひょうごを用いた電子申請で行いまして、提出手段の集計は、資料にお示しをしているとおりでございます。

また、公募の告知ですが、窓口へ設置いたしましたほか、ホームページ、フェイスブック、たかさごナビにて告知を行いました。

また、文化に関係する関連団体ですとか、個人ですとか、そういったあたりにもご協力をお願いしたところでございます。

それぞれの意見につきまして、概要を説明をさせていただきます。

資料ですが、整理番号は意見をご提出いただいた方ごとに付番をしております。その右の欄、「意見の概要」には提出ご意見の概要をお示ししておりまして、そのさらに右側の欄、「市の考え方」の欄には、ご意見に対する市の回答をお示しをしております。

まず、第１番の方の１件目ですが、方針全体の方向性ですとか、内容の整理についてはおおむねご理解をいただいておりました。

その中で、個人や団体間のつながりを促進していくに際しましても、まずは行政自体がその動きを牽引するべきであるとのご意見でございました。財源が非常に限られる中で、いかにそれを効率的かつ効果的に文化振興に投資するかという視点で、人材育成ですとか事例研究、具体的には先進他市町の視察へ出向きなさいとか、あるいは大学等の連携はどうかというような、そこらに投資をすることで、行政が率先して行動すべきとの意見でございました。

それに対してですが、第１次方針の結果を受けまして、本日お配りしております次期方針の１８ページにも示しております課題を整理いたしました。

意見者からのご指摘の人材育成、また連携の充実についても、当該課題として検討したところですので、基本目標２において積極的に取り組む旨、また、それらの実現のために、方針の３４ページにお示しをしております推進体制において取り組むことを前提としておりますので、以上を回答とする予定でございます。

次に、同じ方の２件目ですが、印象として、文化は「高貴なものである」というふうに捉えがちなんですが、そうではなくて、人と人とが日常生活で、少しでも豊かで充実した日々を送る中で醸成されてきたものであり、個人や団体の交流こそが地域文化向上の基本であるとのご意見でした。そこで、市内にはその交流にふさわしい場所がないということが最大の課題であるのではないかというご指摘の意見でございました。

具体的には文化会館の建て替えの話に関わってくるんですけれども、将来文化会館を建て替えるにあたって、その「交流の場の創出」という観点を重視すべきであるとのご意見でございました。

この意見に対しましては、方針の内容に直接反映できるものではございませんが、方針を推進するにあたりまして、その時々の状況への対応ですとか、またニーズ把握を伴ってまいりますので、「交流の場とは」ということを、我々念頭に進めてまいりたいと考えておりますので、その旨を回答させていただく予定です。

同じ方の３件目、４件目でございますが、意見者が訪問された都市について、その街並み整備が例示されておりまして、高砂市もそうなればいいなというようなところ、また市に中心地がないので、市役所、病院、駅といった主要施設であるとか、あるいは文化施設とか公園とか、本来一緒であってこそ、それぞれの活用がより発展できるものが分散していると。これを結ぶ市バスのルートを作り出せないかというようなものでございました。

こちらにつきましても、方針の内容に直接反映できるものではございませんでしたので、市民の方から貴重なご意見として、担当部署に回付という形を取っております。その旨を回答させていただく予定でございます。

次に、２番でございます。

別の方なんですけれども、自身が文化芸能に携わられておられ、高齢化と担い手の育成についてのご意見でございました。特に若い方に継承していきたいが、それが実現できていないという状況で、小中学校ですとか、あるいは高校のクラブ活動への参画、あるいは企業との連携によりまして、その機会の創出をすることを検討してほしいというご意見でございました。

こちらにつきましては、方針の基本目標１におきまして、子どもや若者世代が文化芸術に触れる機会の充実を掲げております。また、先にも申し上げたとおり、方針の推進体制においても担い手間の連携というものを掲げておりますので、これらの実現には一定参考事例とか、我々も研究が必要かなと思うところではありますが、施策を着実に進めてまいりたいということを回答をさせていただく予定です。

次、裏に行っていただいて、３番でございます。

こちらのご意見といたしましては、第１次方針と比較して、より実践的に発展しているとのご評価をいただいております。

その中で、いかに高砂市の魅力を発信し、市民、事業者、行政が理念の実現をなしていくかにご期待をいただいている上で、「高砂検定」の実現についてご提案をいただいております。

この方針ですが、第１次の方針において作り出してきた土台の上に、さらに手法を工夫して、文化をより身近に親しみやすく、施策の実現に取り組んでいく旨と、また高砂検定につきましてはその実現の可能性も含めまして、他部署とも意見を共有しまして、施策の参考とさせていただきたいという旨を回答させていただく予定でございます。

次に、４番ですが、子育て施策に関する意見でございますので、担当部署に回付の上、資料のとおり回答する予定としております。

次に、５番ですが、こちら高砂学の講師をお引き受けいただいている方からのご意見でした。

１件目としまして、歴史上の人物、とりわけ宮本武蔵についての勉強会の実施を希望されるものです。

高砂学の講座内容は、いかに多くの方に興味を持っていただくかが非常に重要になってまいりますので、引き続きご協力をいただきたい旨回答する予定です。

同じく２件目ですが、１件目に関連しまして、それらの講座の情報発信の強化、また活動の場の確保が重要であるとのご意見です。

こちらは、方針の基本目標２において、個人や団体の活動推進、文化の担い手同士の連携促進、また、基本目標４で情報発信の強化に重点的に取り組むこととしておりますので、その中で施策を進めてまいりたい旨回答をさせていただく予定です。

次に、６番でございますが、方針中の誤植に対するご指摘をいただいております。該当箇所を訂正をしております。

以上が意見公募に寄せられた意見でございます。

方針の内容を再検討するようなご意見は見受けられませんでしたので、方針の内容は変更はいたしておりません。

意見公募に関する説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございました。

今、パブリックコメントとして、市民の皆様からいただいたご意見、それに対する市の考え方のご表明ということです。一部、ご意見につきましては、文化政策を超えた部分というのもありますので、これについてはちょっと直接のご回答は控えるということでございます。

なお、このパブリックコメントにつきましては、後ほどこの審議会が終わったあと、ホームページに公開するということですね。

○事務局

はい、その予定です。

○会長

というご予定になってますので、一応、皆様、中身をちゃんと確認いただきたいというふうに思っております。

そうしましたら、これにつきまして、ご質問、ご意見があればお承りいたします。いかがでございましょうか。

○委員

質問なんですけれど、このパブリックコメントの１の（４）番です。私、これは誰が書かれたかと思いながら、こんなこと思っているんだと思ったんです。高砂市には中心地がない。それは、役所の方々はどんなふうに捉えているんでしょう。そして、それをこれから施策の中にどのように中心地がないということを考えながら入れていく予定なんでございましょう。そこら辺のところ、今初めてこういう言葉を聞きましたので、よろしくお願いいたします。

○会長

なかなかちょっと見解が難しい。市役所の職員としてというのは統一見解がなかなかないかもしれないんですが、ただ都市計画等でいわゆる市の中心部はどうであるかは確かに定めているかもしれませんので、そのあたりは市の公式の明文として、何かお答えがあればお願いいたします。

○事務局

中心地がないというのはいろんなところで課題として上げられ、この中心地がないというのは、大抵は市役所のあるような位置にいろんな商業施設であるとか、文化施設であるとか、集まっているところはそこが中心地だなっていうようなことを市民の方も、他市から来られる方も感じられると思うんですけれども、そういったところが市役所が随分東のほうに来て、高砂市自体の中心にもない。また、この伊保、荒井のこの周辺でそういう商業施設が集まってるとか、文化施設が集まっているところがありません。文化のほうは高砂のほうに文化会館とかがありますし、大きくスポーツの関係でしたら米田のほうの運動公園があったり、向島があったりとか、今度新しく４月から伊保スポーツ広場もできますけれども、結構分散をしてるので、そういった印象を受けるのではないかと感じております。

高砂は今、ここで中心地としてどこかに寄せてくるっていうのはもう到底無理なことですので、それらが分散しているところをつなげていくっていうことを、今、高砂市のほうでは考えております。それは一つ、それぞれ都市計画のほうでもいろいろな文化ゾーンとして位置づけたりとか、教育ゾーンであったりとか、福祉ゾーンであったりとかって、そういうような取決めもしておりますけれども、それだけではなくて、交通の整備も、道とかそういったことも整備も含めながら、それぞれに散らばっている。地域は狭いですから、全部を回っても時間的には限られており

ますので、そういったところがうまくつながっていけるようなことを考えていく。交通の便は山陽電車もＪＲも通っていてどちらからも来ていただける。東のほうからも西のほうからも来ていただけるし、南北もそんなに距離がないというところでは、そういったことを考えていくということをしております。ここを中心地というようなことがあればいいのですけれど、特に文化の面に関しましても、施設は高砂のほうにありますけれど、いろいろなところに文化財が散らばっていたりとか、文化の拠点になりそうなところがいろいろなところにありますので、そこをずっと回っていただけるようなことができないか。そういったことの一つにまち歩きというようなこともさせていただいていると思います。

そういった考え方で、高砂市のほうは進めているということでございます。

○会長

どうぞ。

○委員

何々ゾーンっていうのをつなげていく。それはいい案だなと思いました。頑張っていただきたいと思います。

○会長

ありがとうございました。

ほかに何かご質問、ご意見があればお願いします。

○委員

パブリックコメントの取り方というか、もっともっと意見が出てきてもいいのかなというふうに思うのですけれど、例えばこのアンケートを書いていただいた方で、私もそのときに言うといいのでしょうが、アンケートを書いていただいた方に、その一番下とかに回答欄に、そのアンケートを書いていただいてまとめて、それを集約していきます。その後のまとめたものについて、またご意見いただけますか、っていうふうなことを書いて、もう邪魔くさいわ、という人はもう書かない。どちらでもよい、あるいは積極的に書きたいっていう人がおられたら、その人に対しては例えば送るとかして、そういう意見を求めたら、アンケートを書いた人ですから、自分なりの考えがあって書かれてるので、ちょっとでもせっかくでしたらいろんな市民意見募集というふうに書いてあるみたいでしたが、広く求めるという方法を考えてもいいのかなと思います。会長、何かこういうのには関わられておられますか。

○会長

直接パブリックコメントに関わらないわけではないんですが、パブリックコメントの取り方で積極的パブリックコメントの取り方の議論があって、それは先ほど委員がおっしゃったように、関心のあるグループを特定して行う。これはマーケティング型ともいったりする。マーケティングなんかはセグメントをある程度定めて行うということがないわけではないので。

ただ、これも、さっき別の会議やっていた議論ですけども、やはりそのコストの関係、要するに費用ですね。費用との関係が出てくる話なんですね。

例えば、先ほど委員がおっしゃったように、アンケート調査の出られた回答者、これは記名でなければいけないというところがまずあって、その上で、その記名の方に今度は郵送で送る、あるいはメールで送る。メールあたりはただでもできるんですけど。というように、やはりコストとの関係というのも出てくるということで、そこら辺がやっぱり厳しいところです。

パブリックコメントについては、今のところどの自治体も多くの場合がある程度議案、あるいはその法律案がまとまった段階で意見を聞くというのがパブリックコメントで、意見形成においてパブリックコメントを使うことはあまりありません。そういった場合にパブリックコメントが盛んにに出るケースというのは、やはり政治的な問題があるケースで、そうでない限り、行政が普通にやってる限りにおいてはなかなか出ないです。理由の一つは、今日ここでも皆さんにご議論いただいてるように、普通こういうものっていうのはいろいろな広い視点で見られて、チェックもある程度終わってるので、なかなか文句のつけようがないっていうのはありますね。つけようとすれば、今日出てますけども、ちょっとほかの部分などや文字の訂正とかあるんですけども、そういうような状況ぐらいです。そのために、そうしてくると、だんだん出す人が減ってくるんですって、こういうふうな傾向なんです。ですから、おっしゃっていただいたように、待ちの姿勢ではない積極型に切り替えるっていうようなのではないわけではないんですが、やっぱりコストというと関わってるということになるかと思います。

○委員

ありがとうございました。

○会長

ほか、いかがでしょうか。何かご質問。

○副会長

３つの質問があります。裏側の３番の「高砂検定」についてです。明石は「明石検定」というのがあって、それで私はちょっと明石シニアカレッジ、要するに明石の高齢者大学の大学院の担当をしてるときに、「明石城検定」というのを作って、それ結構マスコミも取り上げてくれたんです。ところが、高齢者大学の大学院でそれをやってると、その研究期間が済んだらまた次の研究に移ろうということでなかなか継続しない。この「高砂検定」いうのは市の動きの一環としてプロジェクトチームを作って継続していったらまた面白い高砂ＰＲにもつながるかなと、１点思いました。

２点目なんですけれども、こんなことがあって、４億６，０００万円ほどあったと思うんですけども、５年間で文化庁の予算を取って、高砂町の工楽邸の前を石畳

化する。高砂の堀川はもう浅くなってるので深くする。大型駐車場を作る。高砂市の歴史資料館を高砂町に作ってもらう、そんな格好で実際やろうとしていって、その申請書、あるいはＰＲ、もう５０ページ近くあるんです。私に作ってほしいって言われたんですが、それをしてしまうとほかのことができなくなるということで、お断りしたっていういきさつがあります。市のほうから、国とか県のほうにこういう文化予算を引っ張ってきて、それで文化振興を具体的に図っていくということは可能かどうか。そこら辺のことをお聞きしたい。

それから３点目なんですけども、あるところからその依頼を受けて、ジュニア版の工楽松右衛門物語を書いてほしいということで、実際今書いています。工楽松右衛門の紙芝居を作った、それから工楽松右衛門のかるたを作った、それでジュニア版を作る。それから神戸学院大学の先生が工楽松右衛門の学術書を書かれたりしています。正当な評価としての偉人として、高砂市のほうでそういうもののＰＲと取組、市の職員が中心になって市民も巻き込んでプロジェクトチーム作っていってもいいと思うのですけれども、そういうのができればいいかなと。市のＰＲにもなるかなと思うのですけれど、その３点、いかがでしょうか。

○会長

まず１点目は、ご回答にある「高砂検定」につきましては、具体策を検討すると書いてあるので、これについては進行状況ですね。

２点目はちょっと大きな話なんですが、文化庁予算引っ張っていくような予定はあるのかどうか、なければない。方針として考えれるのであれば考える。

３番目は、これは市としてはいわゆる顕彰するようなイメージでしょうか、それともどういうふうに。

○副会長

その工楽松右衛門さんなんかでも、郷土の偉人とかそんなんじゃなく、正当な評価として、江戸末期のその海運業をスピード化、大量輸送化を貢献してきた人なので、正当な評価をあげるべきだと思うのですけれども、そこら辺を市でＰＲしていくことが大切です。

○会長

市のＰＲのほうをどうするかということで、ちょっと答えていただければと思います。

○事務局

まず１点目の「高砂検定」なんですけれども、これ実は私が今回携わった平成２３年か４年ぐらいに「高砂検定」をやってみようかなということで、一度問題文をちょっと考えてきたっていうこともあって、これ実は予算化に至らなかった。というのが、それよりも先に高砂市にまつわる偉人というか、ゆかりの人物、そういったところの顕彰をしましょうということで、それが検定がなしになって、ゆかりの

人物のほうに力を入れてやっていこうということになりました。平成２６年の６０周年のときにも幾つかその高砂ゆかりの人の継承の事業もやらせていただいたのですけれど、そういった経緯がありまして、ちょっと検定がそのままになってしまったということがあります。これをやるかやらないか、また市のほうで考えることは可能だとは思いますけれども、そういうことで残念ながらそういった経緯があったということはお伝えしたいと思います。今後その課題、そういった事業もできないかというのは課題として受け止めさせていただければ。

○副会長

市民も巻き込んでいますよね。

○事務局

それと、文化予算ですがもちろんできますので、いろいろな事業、今までもやりました。過去ですけど、そのゆかりの人物を取り上げたときに、森はなさんのことを取り上げたときに、朝来市とか一緒になりまして、そういった活動を県の予算だったと思いますけども、取りまして、一生懸命申請をいたしまして、朝来市さんのほうでもやってもらったり、朝来市さんのほうから来ていただいて、そういう劇遊びというのか、そういうのをお話を書かれた方ですので、そういったお話を、お琴との共演みたいなことをやらせていただいたりということも過去にはございます。ですから、今後もいろんな事業を、こちらが高砂市のほうで企画しまして、県の事業とマッチングできれば、国もそうですけれども、できると思います。

また、謡曲「高砂」をやるときに、狂言と組み合わせてやっておりますけれども、今の高砂市のほうでやっておりまして、各保育所、こども園のほうでやっておりますけども、それに関しましても国のほうに申請して、これは予算を取ってということではないのですけれども、珍しい取組であるということで、国のほうで、安倍首相の頃なんですけれども、文化芸術の１００選というものに全国で選ばれまして、またその１００選の中から３０選に選ばれた中にも入れていただいたということで、全国の方に知っていただく機会もできました。そういった取組をどんどんやっていくということで予算を取っていくのも大事ですし、そういったことを今度、市から国や県のほうにＰＲしていくということも一つ大事なことかなと思いますので、予算を見ていくだけでなく、そういった発表の場というのが、伝える場というのをもっと考えていくのがいいのではないかなと思っております。

それから、３点目です。これも松右衛門としましては、道徳の教科書に工楽松右衛門さんの文が載っておりまして、それを高砂市のほうも勉強されてますので、そういった取組もやられております。工楽松右衛門はもう非常にいろんなところで取り上げもさせていただきましたし、６０周年のときは没後２００年っていうことで、私も４つぐらい事業をやりました。各小学生の低学年、高学年、中学校、高校と、それぞれの年齢に合わせた取組をさせていただいたことがございます。そういった

形で子どもさんに伝えるっていうのは、工楽さんの場合は本当に伝えやすいというのが、いろんな事業ができていきます。１つ物語書いていただいてるということでしたら、それもまたどう子どもさんに伝えていくのかっていうところを一緒にまたやらせていただければ、さらにいいんではないかと思います。

以上でございます。

○副会長

ちょっと追加質問みたいになるんですけれども、この間、２月の１日から１４日まで、市役所で「高砂町ゆかりの人物２９人展」をやらせていただきました。また近々のうちに市長と懇談会を持とうとしているんですけれども、その中で、「高砂市ゆかりの人物展」として、そんなものを高砂市にやってもらおうとはしていて、それはまた市長にもそういう提案をしようとしています。「高砂町ゆかりの人物展」はルネサンスみなとまち高砂でやるにしてもね、そういうふうに考えてるんですけど、そこら辺いかがでしょうか。

○事務局

いろんなところで周年事業の中でやっていっております。生誕何年とか、没後何年っていうようなときには、何かできないかっていうことで考えさせていただいておりますので、今後また近々誰か生誕何年であるとか、ちょっとまた考えますけれども、そういった周年のときにやらせていただいて、毎年やるというわけにはいかないですけれども、そういうのもできますし、何か市の今後何十周年もまたありますけれど、そういったときにちょっとお知らせをするような何か施策を考えるとか、いろんなパターンがあると思いますので、そういったことは考えていけるのではないかと思います。

○副会長

ありがとうございました。

○会長

ほか、いかがでしょうか。何かご質問とか、それからあと市の考え方についてのご意見でも結構です。これでいいのかと。１番のところは結構詳しくここで議論したことが中心なので、ご説明いただいたんですが、例えば１の（２）とか、あるいは２の、先ほども検討の話が部長からありましたけども、そういう、もっと細かく書いていただいたらとか、せっかくいい検討したことがあったんだけど、みたいなところも先ほどご説明がありましたけれども、取り急ぎこれからも考えていただきますということであれば、そちらに書いていいのかなとかいうように、もうちょっと詳しくしてもいいんじゃないかとか、こんなようなご意見もあればいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○委員

高砂市の中に、このような山片蟠桃だとかいろんな人がいる。宮本武蔵もいる。誰でもかれでも取り上げるのではなく、いかにこの高砂市を経済的に豊かにしていくかとか、そういう人物もやはり数上げながら勉強して、その中から選んでいく。それぐらいのことをしないといけません。やはり子どもたちにばっかりの紙芝居にして、できるような工楽松右衛門だとかそういうようなのだけでは絶対いけないと思うんですね。だんだん先細りになってきております、高砂市。私が来た昭和５６年は９万からの人口になると言われました。反対に今下がってきております。情けないことです。そして、水道も安かったので、みんな高砂で暮らしたら幸せよって言われたもんです。今、幸せよって言われる部分が何もありません。ですから、いかに私たちよりも以前の方でいろんなことを商売でもされて、この高砂市に経済的利益をもたらせるような人がいるはずでございます。そういうところをもっと調べ上げて、もちろん商工会議所の副会頭さんにもご協力いただかないといけないかと思いますけれども、それを取り組んでいただけたら、私はうれしいなと思います。

○会長

はい、ありがとうございます。そうですね、確かに今回のパブリックコメントだと、５番の方の（２）なんかはもしかしたら、これは歴史、観光等と書いてありますけども、先ほど委員がおっしゃったように、経済活性化に資する人物を取り上げて、もう一度、経済のここに寄与するっていうような、多分ここに関係するようなご意見かなとは思いました。

委員、何かあれば。

○委員

今、さんのほうから、山片蟠桃という名前出たんですけども、私、鹽竈神社、日本三奇の石の宝殿の、生石神社のあるところ。鹽竈神社の鹽竈を見に行ったんですけど、そこに、なんと山片蟠桃の超立派な銅像があるんです。仙台藩を助けたということだと思うんですけども、それは、高砂市の誰も知らなかった。たまたま行って、たまたまぱっと見たら、山片蟠桃やと。ものすごい立派な像がどんと銅像があるので、ぜひやっぱりこういうことをやっぱり、向こうでそれだけの評価してくれてるんやから、もうちょっと高砂はもうちょっとすべきじゃないかなと、さんの今の意見でちょっと思い出しました。報告させていただきました。

○会長

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。ちょっと私からいいですか。

先ほど最初にさんが言っていたご質問、１の（４）の話聞きながら、これ確かに言われてみれば３番もそうなんですけども、３番は街並み整備ということで、街並みも文化の一部であるという感覚、多分防災とかその観点でいうならば市政に対するご意見ということになるんでしょうけども、街並みをどうしていくのかという観点で、ここで文化行政、要するに残す都市、残す街並みにするかどうかとか、そう

いう街並み発見か何かに申請するかどうかはちょっとまた別としても、単に防災や都市計画の部分ですので、文化では答えられませんというよりも、もうちょっと踏み込んでもいいのかなと。街並み保全というものを、例えば地域住民の中でそういったご希望があったりとか、要するに伝統、伝統的建築物保護だとか、それを例えば申請を考えるのであれば、そうしたものを検討するというのももうちょっと書いたほうがいいかなという気がいたしました。

同じように、先ほど委員の質問に対して、事務局から、この文化のゾーンを分けて、結びつけることの重要性と言われたわけですから、例えばそれも文化行政の立場から言えば、そうした形で文化に触れる機会を増やすことを考えていきますというのは入ってもいいのかなというふうに思いましたので、申し上げたいと思います。

それからあと、５の（１）の担い手の方なので、ご協力お願いしますというのは構わないんだけども、宮本武蔵についての勉強会の実施等を希望すると、これは先ほど副会長もおっしゃったような、要するに行政としてこういった人物だとか、あるいはさんも言ったんだけど、そういった方々のＰＲといいますかね、市民へ伝えていくこと、これに対して、この後これから講師よろしくお願いしますというだけじゃなくて、どういう姿勢で考えていくのかというのはもうちょっとお答えいただいてもいいのかなと。

部長のほうからも、先ほどの工楽松右衛門の話を、副会長のご質問に対してのご回答の中で人物のＰＲとかありましたけれど、もうちょっと市としてはこういうことをやります、だからこそご協力をお願いしますというふうな書き方をされたほうがいいような気がいたします。せっかく、これ希望すると書いておられるんであれば、そういうお答えのほうがいいかなと。ちょっとね、保育料のご紹介はさすがに文化と関わらないわけで、全く関わらないとは何とも言えないんですが、先ほどから出てるように、小さな次の世代はどうやってできるのか重要なので、関わると言えば関わるからちょっとこれは答えにくいと思うので、これ以上言わないんですけども、せっかく文化と絡めて答えるところは答えられてもいいのかなというふうには思いました。

ほかに、何かよろしいでしょうか。

○副会長

さん、教育の立場からで、これらの意見聞かせていただいたら。

○委員

そうですね、教育ゾーンや福祉ゾーンや文化ゾーンに分けて、高砂をつないでいくっていうのはとてもいいなと思いました。実際にやっぱりそういうふうな発見の仕方を高砂はしていっているんだろうなという気はしています。米田のほうに図書館ができまして、それで竜山の下に陸上競技場の施設、明姫幹線沿いに商業施設等、荒井、伊保あたりには市の中心いうようなところで、何か上手につないでいく。じ

ょうとんバスもそうなんですけれども、交通網だけではなくて、人の流れや物の流れも上手につないでいけたら、教育、文化、福祉がつながっていったらいいなというふうには思いました。とてもいいアイデアだなというふうに思いました。

一番最後に申し上げようと思ったんですが、高砂市教育美術展がこの２５日、２６日に文化保健センターで開催されます。９時から１６時ぐらいでやっております。コロナ３年ぶりでやっています。先生方、今名札つけたり、展示の準備をしながら、今週の金曜日搬入するんですけれども、文化保健センター、いい場所なんですけれども、ちょっと今で言うたら行きにくい場所にもなっているので、アスパでやったりとかということもいっときは考えたんですけれども、静かに見ていただいたり、文化会館でダンスの大会があったときに来客数が多くなったりするので、何かと何かを抱き合わせたら来場者が上がるとか、発展できるとかという作用があるなと思って、商業施設の中でやって集客数を上げてもらう。そういった教育美術展よりも、高校のダンス大会と一緒にやって、文化会館の中で見てもらうのとどっちのほうがいいんだろうかなって考えたことがありまして、何かと何かを組み合わせるっていうことによって、文化や発信力を上げていくことがあるなと思って、それが今部長さんがおっしゃられたゾーンというもので、市を区画していって、そのゾーン同士のつながりを有益なものにしていくことで、行政や文化、福祉、スポーツ、そういったものがより活性化されて分かりやすくなっていくのかなと。イベントごとにそれをうまく組み合わせていくと、高砂市が文化としてより見えるようになるのかなっていうのは思いました。それを教育によって、その人材を育んでいきながら、高砂市の文化につなげていけるように考えていきたいなというような話を聞いていて思いました。

○副会長

教育美術展はいつからいつまでですか。

○委員

２月２５日、土曜日、時間は９時からやったと思います。２５日、土曜日は１６時半までの来場、１７時に閉めます。２６日の日曜日は１６時の来場までになっています。それで高砂市の１０校の小学生と６校の中学生の作品、１６校分を一堂に展示、立体作品、平面作品、共同制作等を展示させていただきます。コロナで止まってましたので、３年ぶりになります。また、子どもら頑張ってるなって褒めてあげてもらったら、子どもらも頑張れると思いますので、またよろしくお願いします。

○会長

どうもありがとうございました。今、委員からいただいたのが、ちょっとパブリックコメントにというわけではないんですが、今後の文化の発信の仕方の考え方というところで、非常に大きな示唆をいただいたかなと思います。正直のところ、組み合わせというのはこれはいずれにしてもどういう場合でも出てくることでござい

ます。これはいい面と悪い面があって、いい面は、先ほどちょっとおっしゃった、集客ですとかＰＲの効率性がよくなるという面があるんですが、悪い面は目的がぼやけてしまうという面がございます。これはまたどういった場合もそうなんですけども、そこら辺をしっかりと考えて、先ほどおっしゃったように商業プラス文化だと集客面はいいけど目的はぼやけるみたいな。体育プラス文化だと教育という目的ははっきりするけども、関心が薄くなるというような、恐らくこういうことを先生はおっしゃっていただいたと思いますので、これは今後ちょっと実際にこの後でちょっとご議論させていただきますけども、この答申案を踏まえて、事業を推進するにあたって、市として考えていただきたい事業推進の在り方かなというふうには思います。ありがとうございました。

そうしましたら、ちょっと時間も限られておりますので、今日いただいたご意見を踏まえて、もう一度、市の考えを少し書き直していただいて、その上でまた調整を私と事務局でさせていただきますけども、その上でホームページ公開ということでよろしいでしょうかね。

○事務局

はい。

○会長

皆さん、よろしいですか。

そうしましたら、続きまして、２つ目の議論のほうに入りたいと思います。

先ほどパブリックコメントの取扱いの話で、各報告が前提なんですが、その前にそのパブリックコメントによって、この基本方針については字句の訂正が一部ありましたけども、大きな方向の変更はございませんということでした。それに対して委員からは、もうちょっと取り方を工夫したらという話もありました。ただ今回はちょっとできない話なので、今回に関しましては、今回のパブリックコメントを踏まえて、基本方針については特に大きな変更はないということで、前回ある程度もう議論は終わってるんですが、ただその後ですね、いろいろとちょっと課題も生じておりますので、そのあたりも含めて、基本方針答申案についてのご説明お願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○事務局

では、答申案についてご説明を申し上げます前に、１点おわびを申し上げたいと思います。

本来でありましたら、このたび、前方針の改定といいますか、設定期間の満了を受けまして、この第２次方針を策定するにあたりまして、第１回目の審議会、７月１５日の第１回目の審議会時に、本方針の策定につきまして、諮問書というものを取り交わしまして、その後審議を求めていくことが本来でありました。市長から７月１５日の第１回目の審議会で方針についてご審議いただきたいいうことでお願い

をさせてはいただいたんですが、それにとどまりまして、諮問書の取り交わしというものを、事務局のほう、遺漏しておりました。

この件、会長にご相談させていただきまして、諮問書を資料編におつけをしております。ページは４１ページに諮問書と答申書いうことで、本来７月１５日にこの場でさせていただくべきでした。その諮問書の取り交わしというものをしておりませんでした。この諮問書の日付を見ていただくと、１２月１６日ということで、市のほうで事務的な手続になってくるんですけど、この日付でこの諮問の第１５号という番号を取らざるを得なかったということもございまして、このような諮問書の形になっております。この令和４年１２月１６日をもって、改めて諮問手続をさせていただくということといたしました。

また、その諮問に対しまして、本日ご審議いただいた方針を「答申案」として、今日はお配りをしております。

このように一連の不手際に対しまして、この場をお借りしておわびを申し上げたいと思います。申し訳ございませんでした。

○会長

おわびをいただいたんですけど、市長から確かに口頭で言われておりますし、とはいえ、やはりどうしても形式的なこととはいえ、これは条例設置型でしたか。

○事務局

はい、そうです。

○会長

通常、ほか調べてみたら、条例設置型の場合はやはり諮問答申のケースが多いので、やっぱりないとちょっとまずいかなというところもあって、今回こういうようなやり方になりました。条例設置型だとやはり議会への説明が必要な場合があって、そのときにその根拠は何だと言われたときに困るので、確かにちょっと今回このような形でさせていただいたということでございます。

ということで、これはこういうことで、すみませんということだったので、ご了解いただきたいと思います。

じゃあ改めて、答申案についてのご説明をお願いいたします。

○事務局

はい。改めまして、答申案について、ご説明を申し上げます。

これまで三度の審議会におきましてご審議いただきました内容を、本日答申案として整理をしてお配りをしております。前回ご審議いただいたものと内容に大きな変更はございません。

表紙めくっていただきまして、本方針の象徴として掲げております、謡曲「高砂」を掲載しまして、市長の挨拶、このあたりを追加をしております。

１ページから３５ページまでをこれまでご審議いただいた本編といたしまして、３６ページ以降は「資料編」ということで、条例、審議会の規則、先ほどご説明申し上げた諮問書と答申書、審議会委員名簿、方針策定の経緯、文化施策等のあゆみ、本方針策定にあたっての市民アンケートと、その結果の概要を編入をしております。

資料編ですが、第１回の審議会時にお目通しいただいた内容から、４３ページの経緯ですとか、あるいは４４ページ、４５ページのあゆみ、施策のあゆみについては内容を追加をしております。

このうち、施策のあゆみにつきましては、注釈にもありますように、広報等から抜粋をしてきたものなんですが、やはり令和２年度、３年度はコロナ感染症の影響からも、ふさわしい、ここに掲載するにふさわしい事業というものがありませんでしたので、平成３１年度の次は令和４年度とするに至っております。

次に、Ａ３、見開きの１枚ものの概要版というものを本日お配りしております。こちらをお願いいたします。

本編の冊子に加えまして、第１次の方針と同じように、１枚両面見開きの「概要版」を作成をいたしました。概要版の案ですね。今の段階では概要版の案を作成いたしました。策定の趣旨、目的、位置づけと設定の期間、方針の基本的考えと理念、体系と体制を掲載をしております。

以上を最終の答申案としてご審議いただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございました。先ほどちょっと申し上げましたけども、ある程度皆さんのご議論いただいているものをお手元に出しておりますので、特にこれだけは確認をしたいということについてはご質問、ご意見を賜りたいと思います。

改めまして、この「概要版」は今回初めてですよね。

○事務局

見ていただくのは初めてです。

○会長

初めてだと思いますので、これについてはまた修正点とか、ここをもうちょっと変えたほうがいいとか、この部分が抜けているのではないかとか、というようなことについては、ぜひともご意見を賜りたいと思います。

いかがでございましょうか。

では、委員、お願いします。

○委員

前もって素案を送っていただいてて、本当はチェックすべきことだったと思うのですけれど、たしか会議の中で私がニーズとか、片仮名を使わずにできるだけ日本語にしてほしいなということを言いましたが、そういう言葉を使うときは、何かこ

ういう意味ですよということを書くというように言われてたんですけど、どこかに書かれてましたですか。

○事務局

はい。用語集というものを予定をしておりました。一般の市民の方にご理解いただけないかなというような用語が果たしてあるのかなという、用語集として特別に出すっていうようなものがあまりちょっと見当たらないかなというところがあったので、用語集という形では設けておりません。ただ、前回の審議会時にもご説明申し上げたとおり、この方針に使う文書の中で、アウトリーチですとか、そういったところは表現を見直しまして、文書内で変えてるというような形で対応をしております。

○委員

分かりました。ありがとうございました。

○会長

はい、ありがとうございます。ご確認いただきまして、ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。何か。

確かにニーズはね、一般的な用語かというと微妙なところは確かにあるんですけど。

○委員

それに対して言ってもいいですか。

○会長

はい、どうぞ。

○委員

ニーズっていう言葉、前回のときに私も要望のほうがいいのかななんて思いながら発言したように思うんですけれども、これ、社会福祉分野では、社会福祉用語というのがあるんですけれども、そこで引きましたら、こんなふうに書いてあるんですね。

人間が社会生活を営むために欠かすことができない基本的要件を欠く状態であることを社会的判断基準に基づいて認定されるものを「ニーズ」というと。ですから、ニーズでもいいんじゃないかなと、これを思ったりもしておりました。

○会長

いいですか。ありがとうございます。今おっしゃった、いわゆる社会的ニーズと言われているもののご説明だったんですけども、そういった意味で、このニーズのままでよろしいんじゃないかということでございました。ありがとうございます。

ほか。

○副会長

このやつはカラー印刷でしょうか。

○事務局

２色刷りの予定です。もう本当にこの見ていただいているものを色画用紙にこの形で作るというか。

○副会長

概要版ですが、整合性を見ようと思って。概要、１趣旨、２目的、３位置づけ、というふうに落とされてるのですが、同じ数字で落とされているから、ちょっと見にくいのかなと。

それとか、２ページ目にあたる基本的な考え方、１基本理念、１、２、３、４、とあって、これは括弧があってもいいのかな、どっちが見やすいのかなと思いました。それ、カラーとの絡みもあったりして、それで聞かせていただきました。

○会長

今はまだ作成中ですよね。

○事務局

はい。

○会長

本当の大きさも大体一緒だし、多分そういったこともあって、恐らくどこを強調したいのかということもあったかもしれませんけども、そのあたり、例えばデザイナーさんと調整していただくことは可能ですか。

○事務局

デザイナーということでありますが、本当に印刷製本を依頼するだけになるので、原稿は全てこちらで作るので、逆に言うと何かこういうほうが見やすいというようなご提案があったら、ぜひ教えていただきたい。

○会長

まずは、これに書いてある大きさが、ちょっと変えていらっしゃるんでしょうけども、あまり大きく変わっていないので、いわば構成がわかりにくいということですね。

○副会長

概要は、１を使われてるけども、そうじゃなくⅠ、Ⅱとかがありますね。そんな形があってもいいのかなと思ったりはしたんですけれども。ローマ数字、Ⅰとか、Ⅱ、Ⅲとか、何か文字の少し太字にするとか、何か少し差異があったほうが見やすいかなと思いました。

○事務局

はい。

○副会長

内容どうのっていうことじゃないんですけどね。全部文字の大きさとか、数字も一緒の使い方をされてるものですから。

以上です。

○事務局

ありがとうございます。

○委員

関連して。

○会長

どうぞ、お願いします。

○委員

第２次高砂市文化振興基本方針のこのデザイン、めちゃくちゃいいです。

○事務局

ありがとうございます。

○委員

これは高砂染ですよね。文様。

○事務局

そうです。

○委員

ブラックアウトをし過ぎたんですけど、ブラックアウトすることによって、字がすごく浮き出てるんで、すごくいいなと思うんですが、カラーやったらもっといいなと思って、白黒刷りっていうことは例えば、薄い青にこの黒のままの印刷になりますよね。

○事務局

はい、そのとおりです。

○委員

これ、本当の高砂染は薄い藍か茶色系の色か柿渋みたいな色か緑だったりすると思うので、その高砂染の色が出るというのはいいのじゃないかなと。高砂らしくていいんじゃないかなと思ったので、ここだけ飾るとコストが大分違ってくるので、無理なことを言っているとは思うのですが、高砂染っていうのが出てきてる以上、本当の染めの色がここにあればもっといいのになと、個人的に思いました。

以上です。

○事務局

ありがとうございました。

○委員

ちょっとだけしか見えていない染めのところに色があればかっこいいなと思いました。

○事務局

なるほど、ちょっと業者とも相談はしてみます。

○委員

できればでいいので、高砂かっこよく見せたいので。

○事務局

ありがとうございます。

○会長

ありがとうございました。概要版はこれはどういうふうな配布になるのかとか、多分お聞きになられると思うのですけれども、先ほどおっしゃっていただいたように、まず手に取って見てもらわなければいけませんので、ですからそういう意味では目立つというか、ある程度メッセージ性があるっていうのが大事だと、こういうご意見かと思います。

○事務局

はい。

○会長

ほか、いかがでしょうか。何かお気づきのところ、ご意見があればお願いいたします。特にまだ今日ご意見いただいてない方から、ぜひとも何かありましたらお願いいたします。

では、さん、お願いできますか。

○委員

すみません、私からはあまり申し上げることはございませんので、いつものことなんですけども、私、自治会の立場として、本当に２４時間、自治会漬けになっておりまして、自治会目線でいつも臨んでおります。そして、日頃よく連合自治会の会合とかいろんなところへ行くんですけれど、ここで議論されたり、ここへ来ることは勉強になってるんですね。日頃いかに触れてないか。それが現実かなと思います。それで連合自治会とかそういったところ、いろんな協議会とかに参加しますけれども、そこでしか聞けない話なんですね。ですからもうちょっとこう高砂全体で、どこまで皆さんに浸透してるのかなっていうのを感じて、いつもこの場に参加させていただいております。そのギャップが大きいので、何とかならないのかなと。先ほど言われましたけど、高砂のいいところがどんどんなくなっていってしまったという現実ばかりを私は見せつけられていますので、その文化芸術という観点から、高砂を考えるということが日常の生活の中にあまりにもなさ過ぎてちょっと恥ずかしいんですけども、せっかくこういったことをやってるのに、一般の暮らしの中で出てくる会話の中にあまり聞かれない会話かなと思います。でもそれではいけないというのは重々分かっておりますので、特に私は先ほどのじょうとんバス・北浜ルートはカットされることになりましたので、そういったことばかりが、頭の中に入っておりまして、それとかＪＲ曽根駅の整備どうするかと、曽根の人気にもなって

おりますが、高砂駅周辺の整備はかなり今進んでおりますね。まちづくり協議会が立ち上げられて、高砂駅周辺の開発、それと荒井駅の周辺のまちづくりのほうも今立ち上げられてるんですけども、その委員会の中での会話にこういった文化的施設の方針とか、そういったものはあまり管理してないので、もうちょっと現実的に、そんなに大きな市でないので、先ほど言ったようにゾーンゾーンで発達して、それがつながっていくというのもいい案だと思いますし、それこそその辺でね、私からすると、いつもそんな話ばっかりで申し訳ないんですけど、住民の目線として、もう一つこの場面が現実に住民の生活の中に浸透していってほしいかなというのが感想です。

○会長

いえ、ありがとうございました。ある意味、この本質をつかれてるところでもあって、要するに文化振興はなぜ市がやらなければいけないのか、これよく問題になるんでね、これはなぜかというと、やはり文化という担い手って、今まで民間がやってた。これも何度もお話をしてるわけですけども、例えば市民の世界だったりっていうのがあると。どうしても民間でやってきたこと。民間のことにどこまで行政が介在するとかっていう話、だったら先ほどさんがおっしゃったように、もうちょっと地域のことを中心にしたほうがいいんじゃないか。先ほどおっしゃっていただいたように、文化から高砂を考えるということができないかというのは、まさにこの行政のこの部分になっていきますので、そういう意味でいくとさんがおっしゃっていただいたことが、いや実は文化から高砂を考えるのはこれなんだよというふうに、もっとはっきりと言えるようにＰＲのほうをお願いしたいというのを思っております。まさに、今言っていただいたことというのは、その文化振興を行政がする意味っていうことの、本当に本質的な話でございますので、委員がおっしゃったように、例えばこれによって事業の活性化にもうちょっと寄与するよとか、学校にも寄与するよとかっていうのは１つの方法です。それだけじゃなくて、地域に誇りを持ってもらって、地域住民が増えたりとか、それから地域を考えるときに文化から考えようねっていう意見が出てきたよというような幅広い影響があれば、もうこれは本当にこれを作る意図でございますので、そこら辺は踏まえていただいて、またもっと広げていただきたいなというふうに思いました。ありがとうございます。

○委員

はい、さん、今日も例えばこのパブリックコメントの４番のところ、じょうとんバスの市内循環のことがありました。そのときに手を上げて言わないと駄目です。僕らのところ考えてくれへんのか、こういう状態やで、って。それは大事です。後で言ってしまっても、時間がありません。ですからこれからはそのときに上げてください。何とかならないかっていうところまでいけば、みんなでもっと考えられると思います。提案も出ます。

そして、私、その中で今思いました。先ほど先生がおっしゃった学校の作品も、私、美術協会の理事なんです。全然するからな、頼むで、一緒に手伝ってよ、なんて、一回も教育委員会からはありません。美術協会は会長、一生懸命なので、市展がなかったら高砂市の恥やと言って、７年目になりました。一生懸命頑張ったんです。ですから、何とか一つ一つ、それをいい方向へ直していかないといけないと思うんですよ。また手を組みましょう。

○委員

先生が当時にいらっしゃったときは、市の教育美術展と、高砂市の美術展がリンクしていて、公民館等では一緒にポスター等は張られてると思うんですが、そこらのつながりをまたもう一度。

○委員

はい。ポスターではね、なくても大丈夫です。人対人でお互いに顔見知りになったほうがいろんなことができるかと思います。よろしくお願いいたします。

○委員

こちらこそ。

○委員

私はその中で理事いたしております。会計、ずっともう長いんですが、２０年ぐらい会計ずっとやってるんですが、はい、そんなのでいろいろ何かお手伝いできるんじゃないだろうかと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員

こちらこそ、お願いします。

○会長

ありがとうございました。

○副会長

本当にしょうもないことなんですけども、こちら側の１ページの令和の令という字を見てもらって、一番最後のページの下から４つ目の令和の令、統一だけはされてたほうがいいかなと思うので。

○事務局

フォントの違いですね。全体としまして、今文書で使うものが推奨されてるユニバーサルデザインのＵＤです。その明朝体を基本的にこの概要版では使ってるんですけれども、そのほかこのタイトルですとか、あと本編は全てＵＤ教科書体を使っています。概要版のこの表題と、後ろの編集発行のところはそれを使ったとので、差異が生じてるというところなので、この辺は調整は可能です。

○会長

ユニバーサルデザインは一応方針だと思いますので、あれはあらゆる方に見やすいということになってますので、申し訳ないですが、それはちょっと貫いていただ

いて、先ほどご説明ありましたように、ＵＤの明朝体とＵＤの教科書体で字柄が違うということでご了解いただければ、もうこれでいいと思いますので。

○事務局

はい。

○会長

いいですか。

○副会長

ええ、それはやむを得なくて、それにこうしてどうこうするというものじゃないからね。

○会長

ほか、いかがでしょうか。できれば今日まだ発言のない方からお願いします。

○委員

すみません、毎回思うんですけど、私自身がちょっとこの場にいるのはふさわしくないかなといつも思ってしまうんですね。文化連盟のほうから出席をさせていただいてるんですけれども、現実文化面に関わってる者として、また日々努力、精進をして、音楽を追求したり、それから生徒たち、子どもさんたちと接触する中で、本当になさってることは大変立派なことだと思うんですが、本当に高砂市の、もちろん昔におられた著名人のことを勉強してもらうということはもちろんとっても大事なことだと思うんですね。ふるさとのことを知るということは大事だと思うんですが、本当にこの少子高齢化の中で子どもたちを本当に育てていくというところあたりなんですけれど、いつもごめんなさい、姫路市を出すんですけれど、市の大きさも財団の大きさも違いますが、姫路市で育った人たち、世界的にも通用する人たちをどんどん活用してるんですね。パルナソスホールでオルガンを勉強した人が、世界でコンクールを取って、今やパルナソスホールのオルニストになっているとか、私も高砂市民でありながら、今現在もパルナソスホールのチェンバロの講座を受けることができています。姫路市でする場合には、助成金を受けることができるんですね。コスモホールもそうなんですけれど、コスモホールでの無料のコンサートで出させていただくことができるんです。過日、リサイタルの件で後援申請を行いました。というのも、高砂市、あるいは教育委員会の後援というものがなければ、公民館にすらチラシを置いていただくことができないんです。文化会館、図書館、公民館。だから後援を得なければ、市民の目に触れることがないんですよね。高砂市と、それから教育委員会と両方、そのネットのほうから書式のほうですね、書きまして、持って行きました。高砂市のほうは受け取っていただけて、教育委員会のほうももちろん受け取ってはいただけたんですけど、窓口に行ったときに、教育委員会のどこですかって窓口の人から聞かれたんですね。いろいろそれは教育委員会分

かれてるでしょうけれど、後援申請なのですと。窓口の場合は分からないんですよね。お分かりにならない。奥のほうに持って行かれて、奥の方が出て来られたんですけれども、教育委員会、昔からそうなんですけど、何十年たっても変わらないんです。条例があるんでしょうね。何々の条例ってものがあってなんでしょうけれども、個人の名前が出るリサイタルは後援できないということになっているらしいですね。売名行為だと。昔も、何十年も前に私も言われましたけれども、売名行為だと。特別扱いしてはいけない。その高砂市というと、何かそういうところがあるんですかね。だから高砂市の中でリサイタルをしていくというのはなかなか大変なことなんですよね。だけどもまあ高砂市は後援をしましょうということになってくださいましたので、一応公民館とかには置くことができるようになりましたけれども、何かそのあたり、本当にほかの市のほうがよっぽど活動しやすいなというふうには思っています。

話変わりますけれど、高砂町のこととか、それこそさんと同じく北浜なんですけれどもね、高砂町のこととか、その歴史のいろいろたくさんあるところに住んでおりませんので、ふだん。高砂市の中でも山を越えての北脇におるんですけど、祭りのときは非常に盛んなんですが、なかなかふだん接することができないので、こういう機会にお勉強させていただくというのはいいんですけれども、ふだん仕事場と家と往復してまして、大事なことだと思うんですけれども、実際的に、無料で、子育てに大変な方々、ママさんたち、コンサートするたびに赤ちゃん連れて行っていいですかとか、２歳ぐらいなんやけど入ったらいけませんかとかいうお声をいただくんです。そういうときに、やっぱり子育てで大変な思いをなさっている方、今子育ては異次元の支援をしないといけないと社会では言ってますけど、本当に子育てで疲れた方がほっと音楽を聞きたいと。コンサートという、文化会館に行かなくても、ダウンタウンコンサートってどこでもよくやってますけど、何かそういうことすら実現されてないんだけど、何か本当に大きな話はいっぱいいっぱいあるんですけどね。何かそこらあたりでちょっと私がお話ししていただく場ではないのかなというふうに、この頃非常に思っている次第でございます。

以上でございます。

○会長

ありがとうございました。基本目標の中には文化芸術活動の活性化を応援しますというふうに書いてあって制度はあるわけなんですけども、その中の具体的な方策として、できることはもう今すぐ、ずっと前からおっしゃってたので、それはできてないんじゃないかという問題だったと思います。できることをしてないんじゃないかということで、先ほどおっしゃっていただいた後援の問題というのは、やっぱりもし条例なり規則であるならば、まあちょっと変更についてはもう少し文化振興の立場から教育委員会のほうにお伝えいただきたいと思います。以前というほどで

はないので、こういうことに関してはですね、そこら辺を少しご検討いただいてもいいかなと思います。

それからあと、気楽に気軽にといったらちょっと申し訳ないんですけど、音楽なり芸術が楽しめるような空間というのをどう作っていくのかというのも、それも実は基本目標にも入ってまいりますので、一番に入ってまいりますので、そういったことを具体的に進めていく課題というものをいただいたというふうに思います。

ほか、まだいただいてない方、委員さん、何かご意見ございますか。

○委員

はい、そうですね、今、皆さんがお話しされたことが課題であり、これからしていかなければいけないことという認識で、私も聞かせていただいてはいたんですけども、ここに基本目標に、１、２、３、４と書かれてある、今、さんが言われたように、個人も応援しますよということを、ここら辺に掲げられているのであれば、そういうところはもう少しそのようにできるっていうところをしていかないといけないのかなというところもあります。

さんが言われたようなところもありまして、会話の中に高砂の文化的な家族間であったり、友達、親友間であったりという中で、そういう会話というのが僕もそう思えばしてないなという、僕は個人的にいろんな方に芸術がどうだとか、そういう話をさせてはいただいているんですけれども、そういう話題が出てくる高砂市民になっていっていただきたいなと。そのためには行政さんができることを今していただけてるとは思うんですけども、もっと発信の難しさというところもあるかもしれません。今日、こういうコンサートの件であったりとか、もっとＳＮＳで発信してますよではなくて、ＳＮＳで発信しているのであれば、それが皆さんの目に届く機会が少ないのであれば、皆さんがもっとシェアするであったりですとか、何かもっと共有しながら発信する方法もあるのではないのかなと。私も観光のほうに携わらせていただいている中で、その発信の難しさっていうのはとても身をもって感じておるところなんですけども、そういうところも観光面、ほかの部署とうまく共有、共存しながら、共に発信をしていくというところも大事なのかなというふうに感じました。

以上です。

○会長

どうもありがとうございました。やはりもともとこれは第１次のときからずっとその市民の中にこういう文化を醸成したいというのがあって、それは継続してるわけですけども、ただまだそれはできていないところはありますので、今後ともその方針に沿って進めていきます。それによって、そういった機会も増えてくるだろうというふうに思います。

ほか、いかがでしょうか。委員お願いします。

○委員

じょうとんバスのこと、さんに聞いてショックを受けたんですけど、実は公共交通会議に出ていて、北浜町のルートで、あともうちょっと行ったら大塩駅やった。何で大塩駅まで行かへんねやといって、大塩駅までルートを作ってもらったのに、それがなくなるんですね。

○委員

そうです。今年の１０月１日に。

○委員

そうなんですか。ちょっとそれは。

○委員

ルートがね、一時休止になるんですよ。

○委員

僕はせっかく大塩駅に、市をまたいででもやっぱり行くべきやということで。

○委員

この間も、私は市のほうから説明に来られたので、なくすのは仕方ないと、採算が取れないということでね。いろんな方策を立てて、無料券を配ってみたりやってるんやけど、ちょっとアピールが下手くそやねという話をさせてもらったんです。十分に住民に受け入れられてない。それと、やっぱり田舎になるほど、マイカーが浸透してるので、よっぽどメリットがないと、ああいう公共バス、じょうとんバスは使わない。それで本数がない。

○委員

一応、じょうとんバス、弱者救済のバスやと聞いたんで。

○委員

その予定でしてるのに、１台あたり、１日１．３人という利用が、その期間満了となってる。それはよく分かるんですけど、だからそれだったら、ああいうちょっと高砂の中でも北浜地方いうのはちょっと遠いです。外れになるので、そこだけのルートを回るように、小さなバスではできないのかとか、この話はもうよく議論されてるんですけどね。まあどっちにしても、とりあえず今のじょうとんバスは、この１０月で休止になります。でもやっぱりそれで困るという声も出てるんです。やっぱり高齢化が進んでるので、高齢の方はやっぱりあれば利用したい、そういう方々はなくなるのかというふうにを言われています。何かもうちょっと上手な、せっかく走るんだったら、路線バスだけじゃなくて、私が提案したのは、もっと観光に使えるような、例えば高砂めぐりのルートとか、団体で貸し切って高砂周遊とかね。そういったいろんなサービス業的な。

○委員

私が公共交通会議に出ていたときは、それも言って、平日はここ、土日はこういうルートというのをちょっと提案したことがあるんですけどね、もう今はちょっと出てないですね。

○委員

なかなかそういうのが取り組んだとしても実現しないで、成功しないうちに終わってしまうところあります。

○委員

それとちょっと会社のことを言わせていただいたら、私の会社、プラントの工事会社してるんですけども、判断の基準をおもろいか、おもろないかでやろうかと。これしたらおもろいかと。この仕事したらおもろいかと。おもろかったらやろうと。おもろなかったらやらんとこうということで、ちょっとそういう遊び心を、やっぱりこのやつ作っておもろいかって言ったら、おもろいなで判断したら結構いいものできると思うので、そういう遊び心をしてもらったら結構いけるのではないかなと思います。おもろいです、面白いじゃなく。そのおもろいをコンセプトに、今ちょっと会社でやってます。

もう一つは、プラント工事会社なので、安全のポスターを子どもさんとかお孫さんに書いてもらって、それを毎年一回出してもらってます。安全のポスターを子どもに書いてもらったら、結構なインパクトがあるんですよね。やっぱり。芸能人のポスターじゃなく、本当子どもさんが書いたポスターで、お父ちゃん、元気で頑張ってよとか、けがしたらあかんでとか、そんなんをちょっとコメント入れて安全のポスター書いてもらってるんですけども、これもすごいインパクトあるので、会社でそれをずっと今もう５年ぐらい取り入れてやっています。

それともう一つ、高砂ロータリーの報告なんですけれども、７月２９日、土曜日に、あの指揮者の佐渡裕さんを呼んで、コンサートをしようかと。今はそこまでしか決まってないんですけども、内容としては、せっかくなので高校生とか中学生のブラスバンドの指揮してもらったらいいかなということを考えています。まだこれは正式に決まってないんですけれども、決まりましたらまた報告させていただきたいと思います。ただ、７月２９日、土曜日、佐渡裕さんのスケジュールだけは押さえたということは聞いておりますので。結構有名な指揮者なんで、もう子どもにとったら夢みたいなものかなと思うんですけれども、佐渡裕さんのスケジュールだけは押さえれたということだけ決まりましたので報告させていただきます。

以上です。

○会長

ありがとうございました。バスについては、ちょっと今ここでは何とも申し上げようがないんですが、先ほど実は先生がおっしゃっていただいた組み合わせというのは、公共交通にどう使えるか、ちょっと考えないといけないということを言われ

ていて、正直言うと、公共交通機関は高校生、中学生、特に高校生ですね。中学生は歩いて行ける距離に学校があるんですけど、高校だと必ずしもそうではないので。高齢者は使うんじゃないかと。確かに免許返納された方は使う可能性があるんですが、もうそれは本当に限られた数字になってきて、そういった方々のご家族が移動するので、実は主要なのは高校生、そうすると実は教育との関わりっていうのは非常に重要なキーテーマになってきて、そのあたりを本当はもうちょっと議論しなきゃいけないんですが、残念ながら高校の教育と公共交通を結びつけるなんて発想はおもろくないので、あまり取り上げていただけないので、ぜひともそういったところをおもろいということで取り上げていただくとまた変わってくるかもしれません。

ありがとうございました。ほかに何かまだご意見、言いたいというのがあればお願いいたします。

○副会長

会議が始まる前にちょっと言ったんですけども、高砂市役所の駐車場が完成していて、２月１日がこけら落としで、分庁舎のホールで展示をやらせてもらいました。結構いいホールなので、そこにアップライトピアノを置いて、まちかどピアノって、テレビでもやってるし、ユーチューブでもやってるし、ＪＲの主な駅は全部ピアノを置いてますからね。ぜひホールも置いてもらいたいと思います。そのピアノの調達も無料で寄附する人も決まりましたので。ぜひ、何とかそこが文化の活用に使えるようにしていただいたらなというふうに願っています。

○会長

その件は、前から委員からも言われてましたので、検討しますというのは言っておりますので、ぜひとも上げていただきたいと思います。

委員、何かよろしいですか。

○委員

先ほどのさんの件なんですけれども、本当にこれは毎日の生活が変わることですから大変だなと思うんですけれども、そこのところで地元の住民の方と、それから市との話合い、どこまでどんなふうにいったのかなというのが、すごく私たちが分からない部分ではあるんですね。そして皆さんが納得されて、市の案を飲み込んだのというところまでいかないといけないと思うのですが、そこら辺のことがこれからいろんなところで、さんたちの北脇のようなことが起こる可能性があるのですけれども、やはりそういうことを勉強しながら、私たちのこのグループもやっていかないといけないのではないだろうかと思います。いつも時間がないので、なかなか詳しいことは聞けないですが、何とか皆さんの生活が本当に高砂らしい、いい生活ができるようにと思うのですが、そこら辺は市のほうはどのように考えてらっしゃるんでしょうか。

○会長

ちょっとこの公共交通はまた別の話にもなってくるのと、ただ一方で、こういう施策を進めるにあたって、どう進めていかなければならないかという議論ですね。昨日かおとといかな、新聞に予算の話が出ていてました。市長というのが今、議員さんたち、政治家ですよね。官僚というのは官僚機構があって、そういうのは行動原理が違うわけです。政治家っていうのはやはり自分の理念だったりとかを長く実現する。官僚機構というのは当然その公平性と効率性を追求しないといけません。でも実はこの二つだけでは市って動かなかった。そこの中に市民というのが入ってこないといけないので、それはどういう形で調整していくのかというのがいろいろ難しくて、例えばこの場も一つの調整の場なんですけれども、そういうものをこれからあちこちに作っていかないといけないのだろうと思います。

公共交通に関して言うと、実を言うと、そこに営利性とか事業者が入ってくるので、ますます複雑になってきて、先ほど言った三つだけではなかなか成り立たないところが出てくる。だからこそ、先ほど申し上げたように、学校と組み合わせてはどうかとかっていうご意見が出てこなきゃいけないんですが、それが今言った効率性を追求することはおもろないわけですから、出てこない。政治家もよっぽどその教育に詳しい人がいれば出てくるんですけど、そうじゃないと出てこない。だからこそ、先ほど委員がおっしゃったように、こういったことを言える市民が入る仕組みというのを、公共交通だけじゃなくて作っていかないと、恐らくまちはよくならないというのはおっしゃるとおりかなと思います。

話が長くなりましたけども、ちょっと今日ね、これちょっと市に問うのはちょっと過酷なんで、私のこういった回答でご満足いただければと思います。よろしくお願いいたします。

ほか、いかがでしょうか。何かご意見とかありましたら。

ということで、皆さん、本当にご支援、お力添えによりまして、ようやく案がまとまりました。

今後の予定等について、次の４番目のその他の議案もございますので、ご説明のほうをお願いいたします。

○事務局

はい。次第の４、その他ということで、今後のスケジュールでございます。

本日の審議会で頂戴いたしました意見をもとに、修正加えるべきところは加えまして、会長から市長に対しまして、答申、本方針の答申をお願いしたいと考えております。

答申をいただきましたら、第２次高砂市文化振興基本方針の冊子と概要版の印刷の作業にかかる予定としております。

委員の皆様には３月下旬、もしくは４月の初旬にお渡しできればいいなというふうに考えておりますので、よろしくお願いをいたします。

先ほどのパブリックコメントに対する回答、こちらについても手直しを加えさせていただいて、会長に見ていただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上です。よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございました。ということで、私のほうから市長のほうにまた答申という形で、答申案をお渡しさせていただきます。その際には恐らく説明しないといけないので、今日皆さんにいただいたご意見であるとか、これまでいただいたお話など、しっかりとお伝えしたいと思っております。繰り返しになりますけども、市がなぜ文化行政をしないといけないのかという立場から、私としてはお伝えしたいなというふうに思ってますので、よろしくお願いいたします。

そうしましたら、一応これで私の役割も終わりになると思いますので、一旦事務局のほうに、司会の進行をお返ししたいと思います。

○司会

本日は、大変なご審議をいただきまして、ありがとうございます。

閉会にあたり、副会長よりご挨拶をお願いします。

○副会長

今日は、さんがおっしゃった、佐渡裕さんがこちらへ来られるということで、すばらしい人が来てくださるということですが、実は、２０１４年にウィーン少年少女合唱団が高砂に来たことを、皆さん、ご存知でしょうか。それを聞いた青い鳥合唱団の子どもがウィーンに行きたいと言って、それでなんと日本人でドイツ語を知らない、ピアノも習ってない、音符も読めない彼がウィーン少年少女合唱団に採用されたんです。ウィーンっていうのは少年少女だからボーイソプラノのときじゃないといけないので、彼が、宝殿中学校に帰ってくることにはなったんですけどね。佐渡裕さんと接し、それが高砂から、そういう指揮者が生まれることをすごく期待しています。今日兵庫県いなみの学園で講座に入ってくれた子が、播磨南高校２年生のときに、声楽家になりたいって。あんた、何言っとってやねんって、親も学校の先生も言ったんだけれども、そこまで思ってるんやったら、ということで応援し受験したら現役で大阪音楽大学に行きました。今、神戸市で日本初の月給制のプロの合唱団があるんです。そこに倍率きついんですけど、そこに合格し、どんどんうまくなっていっています。だから夢を持って、その夢がどんなところで生まれるか分からないけど。佐渡裕さんもそういう格好になればうれしいなと思ってます。

以上です。どうもご苦労さまでした。

○司会

ありがとうございました。

本来でありましたら、以上をもって散会させていただくところではございますが、この３月をもちまして、部長が退職いたします。

第１次方針策定時から、本審議会に大変お世話になってまいりましたので、ここで皆様にお礼を申し上げます。

○事務局

健康こども部長をしております、でございます。改めまして、本日は本当にありがとうございます。ようやく２次の答申ができ上がりました。本当にいろいろ思い返しますと、平成２３年に文化スポーツ課っていうのが、文化と名前のつくところが市役所の組織として初めてでき上がりました。そのときに、文化スポーツ課の文化の担当主幹ということで、させていただくことになって、その当時、本当に文化のこともあまり知らない。その前が年金係でしたので、文化のことも何も知りませんし、こういう方針であるとか、計画とか、作ったこともないですし、審議会って何ですかみたいな状態で主幹をしておりました。その当時に方針を立てる中では、ここにも先生にその当時からお世話になっておりますし、その当時から入っておられる委員さんもいらっしゃいます。大変ご迷惑をいろいろおかけしたと思います。私のつたない文章が先生の手にかかるとまた夢のように変わってまいりまして、ただそういった経験を踏まえる中で、たくさんの方と出会いましたし、この文化に関わることで、本当に出会いがたくさんあったなというのが印象でございます。文化は、私にとっては人生を豊かにするものでございました。これは市民の方にも多分言えることですし、役所の職員に対してもこれはたくさんの人と出会ったり、役所生活を豊かにするものになるんじゃないかなと思っております。この計画を作ることが、また次の全然違う仕事もしてきたんですけれども、それが力になっていったのかなと。この経験って、もう本当にすばらしかったなと思っております。方針作るにあたっては、この１次のときはとにかくいろんな人と出会うことが大事と思っておりましたので、いろんな活動をされてる文化連盟をはじめ、いろんな活動、文化連盟に入っていらっしゃらないで活動をされてる方、どんな人がいらっしゃるのかなっていうこと、また市役所の中のどんな文化の事業をやってるのかな。それが１箇所だけじゃなくて、いろんなところ、もちろん教育もされてますし、いろんな部署で産業のところも文化的な仕事もされてますし、それも前は一つにまとまらなかったっていうのがばらばらでやってたわけです。それをやっぱり一つにまとめて、いろんな部署がいろんな文化に関わることをやってたんだっていうことを初めてこの方針、計画っていうものを作るにあたって分かってきた。それ、市の職員が前は分かってなかったわけですね。じゃあそれ、分かってない中で、文化振興をどうしていくんだなんて、そんなことはできなかったわけです。じゃあそれは改めてこの部署ができて、こういった方針を作って、さあやろうというときに、そういった文化の事業がどんなものがあるか。どんな活動をされてる方がいらっしゃるか。まず

掘り起こしをしないといけないっていうのが、この１０年であったのではないかなと思います。その中で、今振り返りますといろんな課題が出てきておりますので、それでもできなかったところがいっぱいあって、講演申請一つにしても、やっぱり解決できてなかったなっていうのが今反省点としてあります。本当、２次ができていく中で、今まで課題になってて、まだできていないことをすることはもちろんです。さらにこのコロナ禍でいろんな活動ができなかったっていうことがありましたね。そういった中でも、文化をつないでいくためにどうしていくのかっていう大きな課題が、市民にとっても、高砂市の職員にとっても出てきたと思います。そこは必ず考えないといけない。これは文化だけではなくて、スポーツ関係でもそうですけれども、いろんなことに影響を及ぼした中で、今後いろんな感染者が出てくるかもしれない中で、文化をどうつないでいくのかということは大きな課題であると思います。

さらに、今たくさんご意見いただいた中で、文化というのは教育にも関わるし、産業にも関わるし、観光にも関わるし、私、考えてるのは国際交流とか、もっと海外のところにも結びついていくでしょうし、そういったことを全てをやっていくことで、高砂市のまちづくりっていうのがもっと豊かなものになっていくのではないかなと思っております。

今後とも、皆様方のお力をお借りして、この若い職員たちにまたアドバイスをいただいて、高砂市がもっともっと豊かになって、人々の生活も心も豊かになるように、またお力添えをいただきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。本当にどうもありがとうございました。

（拍手）

○司会

どうもありがとうございました。

（午後７時４３分　閉会）